

## 日本とトルコ共和国の深く長い絆

プログラム委員会副委員長

野上 健治 (東京工業大学教授 火山学者)

2023年2月6日の未明、シリア国境に近いトルコ南部でマグニチュード(M)7.8の大地震が発生、その9時間後には最初の大地震の震源から約100キロ北に離れたところでM7.5の地震が発生しました。比較的近い距離での巨大地震が連発したことで、極めて大きな被害に至りました。現地の気温は氷点下まで冷え込んでおり、大変厳しい条件下で各国の救援隊も加わり懸命の救出活動が現在も続いています。今回の地震は、アラビアプレートがアナトリアプレートに向かって北上することでひずみが蓄積しトルコ南東部に延びる東アナトリア断層で発生したものです。トルコ共和国の北部を東西に貫く全長約1000kmの北アナトリア断層でもM7級の地震が繰り返し発生しています。日本列島周辺でもせめぎ合う4枚のプレートによってひずみが蓄積することでこれまでに何度も巨大地震が繰り返し発生しており、今回のトルコ南部での大地震は決して他人事ではありません。

日本とトルコ共和国の友好関係は国交樹立以前から130年以上にわたって続いています。1890年にオスマン帝国最初の親善訪日使節団が皇帝親書と最高勲章を携えて軍艦エルトゥールルで来日しました。使節団一行が帰国の途についた翌日、和歌山県串本町大島沖で台風による猛烈な波浪と強風のために軍艦エルトゥールルは座礁・沈没し、乗員587名が殉職、生存者わずかに69名という大海難事故となりました。この遭難に際し、当時の大島島民は総力を挙げて救助活動、介護、また殉難者の遺体捜索、引き上げにあたり、非常事態に備えて貯えていた食糧の一切を提供して生存者の介抱に懸命に努めました。救出された69名の乗組員は神戸で治療を受けた後、明治天皇の命により軍艦金剛、比叡によって帰国の途につきました。遭難の翌年2月には、殉難将士の遺体が埋葬された串本町大島郷野崎の地に地元有志により「トルコ軍艦遭難之碑」が建立され、トルコ共和国との共催で5年ごとに慰霊の大祭を催し現在に至っています。この海難事故は日本国内で大きく報道され、犠牲者とその家族に対して大変同情した山田寅次郎(後の茶道宗偏流第八世家元・山田宗有)は全国で講演会を開催し、当時で5000円(現在の価値で約1億円)の義援金を集め、1892年に義援金を携えてイスタンブールに単身渡り、オスマン帝国外務大臣に手渡しました。その後、山田寅次郎はオスマン帝国皇帝から厚遇を受け、通算20年にわたって日本とオスマン帝国の架け橋となった日本人として知られています。

エルトゥールル号遭難の90年後、1980年にイランとイラクの間で戦争が始まり、この戦争は1988年まで続きました。両国の都市爆撃の応酬が続く最中の1985年3月17日、48時間の猶予期限以降にイラン上空を飛ぶ航空機は無差別に攻撃するとイラクのサダム・フセイン大統領が突如宣言しました。イランに住んでいた外国人は自国の航空会社や軍の救援機によって順次イランから脱出してきましたが、日本人の救出にあたっては、当時の自衛隊法では自衛隊機を派遣するのは不可能でした。また、民間機も航行の安全が確保できないとの理由から派遣を見送られ、国外脱出を切望する日本人215名は脱出する術もなくテヘランに取り残されました。在イラン日本大使館では手を尽くして救援機を派遣した各国に日本国民の救援を要請した結果、トルコ共和国だけがその要請に応え、タイムリミットが迫る中、救援の手を差し伸べてくれました。イランに取り残されていた約500人のトルコ国民は日本人に席を譲り陸路で脱出、日本人215人全員が2機のトルコ航空機で脱出することができ、無事帰国することができました。なぜ自国民ではなく日本国民を救出するためにトルコの航空機が来てくれたのか。それはエルトゥールル号のこの遭難に際して大島島民による献身的な救助活動をトルコの人たちが忘れていなかったからです。

1999年8月17日に発生したイズミット地震では日本からトルコへ捜索隊・救助隊の派遣のみならず、医療支援、ライフライン復旧支援、耐震対策など様々な緊急援助が行われました。トルコ共和国政府から被災者に対する仮設住宅の供給が要請され、兵庫県より阪神大震災の被災者が使用していた仮設住宅の無償提供を受け、海上自衛隊「トルコ共和国派遣海上輸送部隊」がわずか27日でイスタンブ

ールに到着、約500戸の仮設住宅をトルコ政府に提供することができました。2011年3月11日発生した東日本大震災では、トルコ共和国からも物資や食糧・飲料水の支援のみならず、救助隊員と医療関係者あわせて32名が約3週間もの長期にわたり様々な支援活動を行ってくれました。

このように、日本とトルコの間には支援の輪ができているという歴史的な経緯がありますが、人が人を想うことの大切さ、自分たちがやれること、やらなければならないことを改めて深く考えようではありませんか。

**【参考文献・資料】**

日本とトルコの絆をつないだ物語（和歌山県串本町）

<https://www.town.kushimoto.wakayama.jp/kanko/kizuna/turkey.html>

日本とトルコ130周年記念 特設サイト 日本とトルコの絆（日本・トルコ協会）

<http://www.tkjts.jp/130th/>

外務省HP わかる！国際情勢 vol.73 世界が日本に差し伸べた支援の手～東日本大震災での各国・地域支援チームの活躍

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol73/index.html>

防衛白書平成12年度版

[http://www.clearing.mod.go.jp/hakusho\\_data/2000/honmon/frame/at1204020202.htm](http://www.clearing.mod.go.jp/hakusho_data/2000/honmon/frame/at1204020202.htm)

日本とトルコの架け橋となった民間大使 伝説のニッポン人 話題の達人倶楽部編 青春出版社

<https://www.books.or.jp/book-details/9784413093040>

以 上